北近畿タンゴ鉄道生活交通改善事業計画に関する協議会
開催結果

１．日　時

令和５年６月９日（金）９時３０分から１１時３０分まで

２．場　所

市民交流プラザふくちやま　３階 視聴覚室

３．出席者

委員３３名（うち代理６名）
オブザーバー１名
（別紙　出席者名簿参照）

４．当日資料

別紙のとおり

５．議　題

第１号　協議会会長の互選について　⇒　京都大学中川名誉教授を新会長に選任
第２号　協議会規約の改正について　⇒　承認
第３号　令和５年度事業計画（案）及び収支予算（案）について　⇒　承認
第４号　北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画の取組状況について
第５号　京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画（仮称）の策定について

６．主な意見

〈第１号　協議会会長の互選について〉

○ 特に意見無し。

〈第２号　協議会規約の改正について〉

○ 特に意見無し。

〈第３号　令和５年度事業計画（案）及び収支予算（案）について〉

○ 特に意見無し。

〈第４号　北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画の取組状況について〉

○ コロナの影響以外で、取り組めていない事業があるようなので、計画に盛り込んだ事業を成立できるのか計画策定時点で検討しておかなければならない。

〈第５号　京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画（仮称）の策定について〉

○ 観光客の利用拡大に頼るといった考えではなく、基本は沿線住民の利用の拡大を考えるべきであり、通学については毎年流動があるため、柔軟な対応が必要となる。駅周辺への立地誘導は簡単ではないが、列車を待っている時間が過ごし易くなる環境を整備する必要がある。

○ 観光という面では外からの誘客を考えてしまうが、マイクロツーリズムのように隣の地域を楽しむ、そんな旅の仕方になるような行動変容もできないかと考えている。加えて丹鉄ファンを増やす取り組みをぜひやっていただきたい。外向けの調査のみではなく、沿線住民に対しての調査も必要だと思っている。

○ この地域の取組は住民の方の顔が見えることが魅力的であり、「住民の方に会いに来る」ことが大事だと思っている。観光客に対して壁を作らずに一緒に地域を盛り上げる形で、日本人も外国人も分け隔てなく受け入れていけたらと考えている。今どんどん地方に目が向いていく中で、京都府全域、あるいはもう少し広い地域で観光客向けの取組ができればと思っている。

○ 日本の公共交通の利用者が減少している理由ははっきりとしており、それは公共交通を便利にしてこなかったからである。数は少ないが利便性を向上させることで利用者が増加した鉄道も日本にある。本日の資料では今後の施策の方向性に「利便性の向上」があまり見られないので、「利便性を向上させることでたくさんの人に乗ってもらう」といった基本的なところを工夫できればと感じている。

○ 宮津駅から今の与謝野駅が国鉄時代に開通したのが 1925 年であり、あと 2 年で 100 周年を迎える。与謝野駅のある地元の区では、何かできないかと駅の活性化についてアンケートをとり、話し合っているところ。

○ 観光客だけでなく、住民も使いやすいダイヤにしていただきたい。今、宮津市の丹後由良駅ではボランティアの方が店を出店されており、駅周辺も綺麗になっている。岩滝口駅でも駅活性化に向けた活動が続けられており、だんだんと人が集まるようになってきている。他の駅でも活性化に向けた活動をやれば活気が出るだろうと楽しみにしている。

○ 西舞鶴駅から宮津方面で 37 分発パターンダイヤが組まれ、利用しやすくなり、WILLER TRAINS に変わったありがたみを感じている。今後少子化が進む中で、鉄道とまちづくりと教育を一体にして進めていかなければならない。地元の皆さんが普段使いできるということに重点を置きながら、観光・インバウンドも考えていく必要がある。